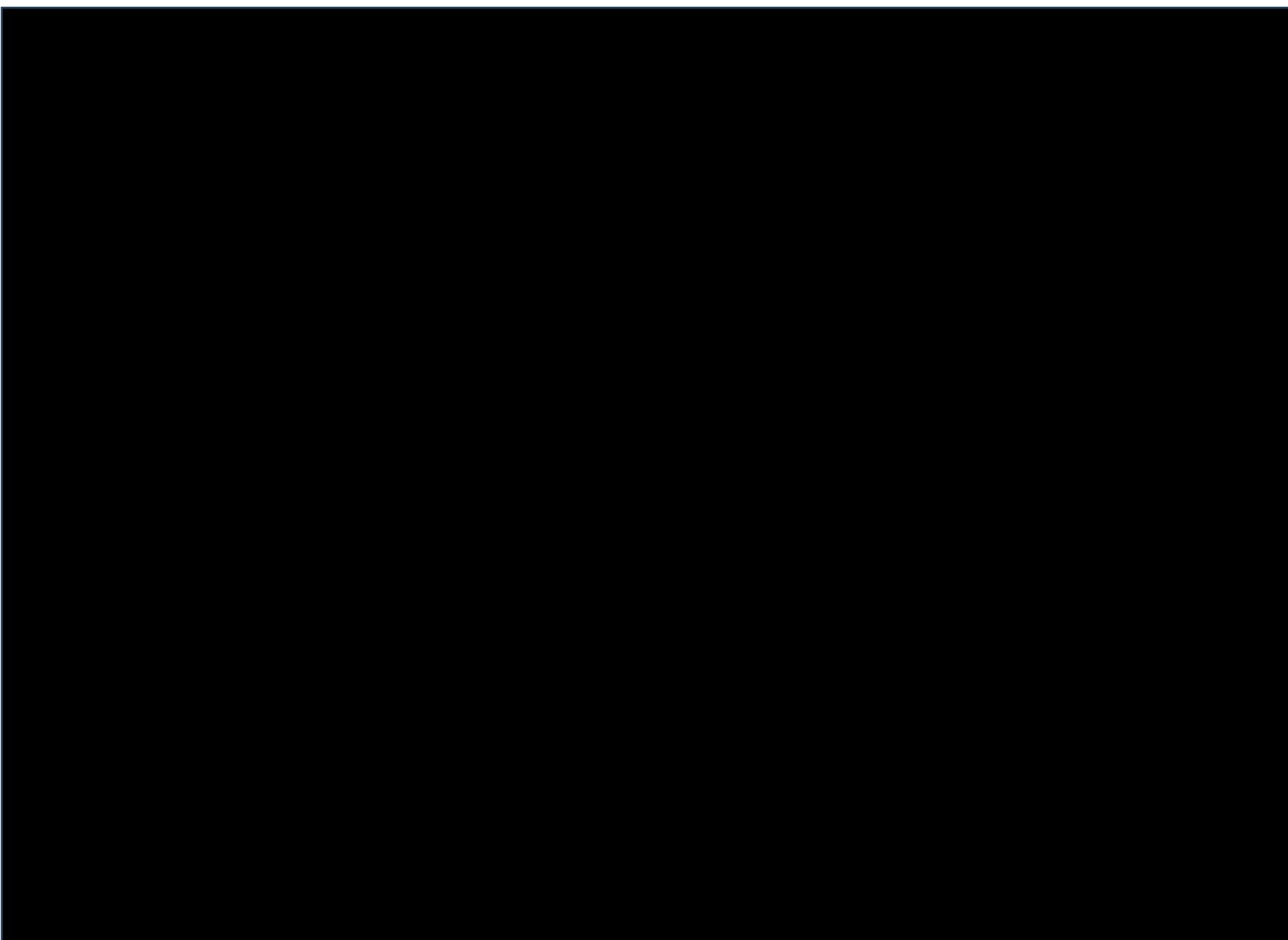


## 2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	英語

次の英文を日本語に翻訳しなさい。



出典 : Lucia Dolce and Shinya Mano, "Godai'in Annen," In *Esoteric Buddhism And The Tantras in East Asia*, Charles Orzech general ed., Leiden: Brill, 2011, p. 770-771. 一部改変

\*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

『真言宗教時義』は、安然の重要著作のほとんどが著された 876 年から 885 年の間に書かれたものであるが、台密教理の包括的な概説である。この著作で、安然は、「四一」として知られる新しい教判の形式で自らの仏教理解を示している。彼は、仏・時・処・教という四つの同様に構造化されたカテゴリーによって仏教の教えを分析し、真言宗は一仏・一時・一处・一教によって構成された包括的な真実を主張するのであると論じている。この世界にこれまでに出現した無数の仏、彼らが説法したあらゆる時代と仏国土、全ての仏教の教えが、「密教」というカテゴリーに集約されるのである。

これは、真実を絶対的な視点から見て、全ての現象のあるがままのありかた（真如）を承認するという存在論的な解釈である。その包括性のために、それは [密教以外の] 他のものに向けられた仏教諸宗の教義の相対的評価とは対照を成している。彼に先行する者たちが密教を仏の説法の最後の時期に含めていたのに対し、安然は、天台宗の五時の分類を超えるとともに、それらを包含する、仏の永遠の時を構想した。確かに、無限の時間的次元に対する強調は、安然の貢献の中で最も独創的な側面かもしれない。究極的には、安然の体系の目的は、仏教的な真理が取り得る多様な形態を単一の仏教に統一することであり、それは真実に対する密教的理解に根ざし、台密のカテゴリーによって活性化されたものであった。この意味で、安然がこの作品の題名にも用いている「真言」や「真言宗」という呼称は、密教全体、ひいては仏教体験の全体を示している。

出題意図：

Purpose of Question：

仏教の教理・用語についての正しい知識にもとづき、英語による仏教の論説を正確に理解する。